

古紙偽装と社会環境の変化について

◇紙の生産量と価格

- 製紙業界は、装置産業で、設備投資と稼働率が生産量を決めることから、販売競争により販売量の維持・拡大をはかる傾向が強く、設備増強などにより供給能力が増えると短期的には供給超過、価格下落がおきやすいといわれている
- コピー用紙について生産量、販売単価の推移をみると、生産量は1990年から2006年で約2倍に増加している一方で、販売単価は約2/3まで低下している

表1 紙・板紙主要品種別生産数量、販売単価及び生産金額の推移

品 種	項 目	1990年	1995年	2000年	2004年	2005年	2006年
紙・板紙	生産数量 (千ト)	28,086	29,659	31,828	30,892	30,952	31,106
	販売単価 (円/kg)	121.3	108.3	95.6	91.0	91.1	91.3
	生産金額 (億円)	34,068	32,121	30,428	28,112	28,197	28,400
紙 計	生産数量 (千ト)	16,429	17,466	19,037	18,788	18,901	19,062
	販売単価 (円/kg)	154.5	136.2	121.5	112.8	113.1	111.8
	生産金額 (億円)	25,383	23,789	23,130	21,193	21,377	21,311
PPC用紙	生産数量 (千ト)	434	630	816	819	853	855
	販売単価 (円/kg)	155.1	123.7	108.1	105.1	104.6	103.8
	生産金額 (億円)	673	779	882	861	892	887
板紙計	生産数量 (千ト)	11,657	12,193	12,791	12,103	12,051	12,044
	販売単価 (円/kg)	72.0	65.0	55.9	56.2	55.9	57.8
	生産金額 (億円)	8,393	7,925	7,150	6,802	6,737	6,961

資料：紙・板紙統計年報

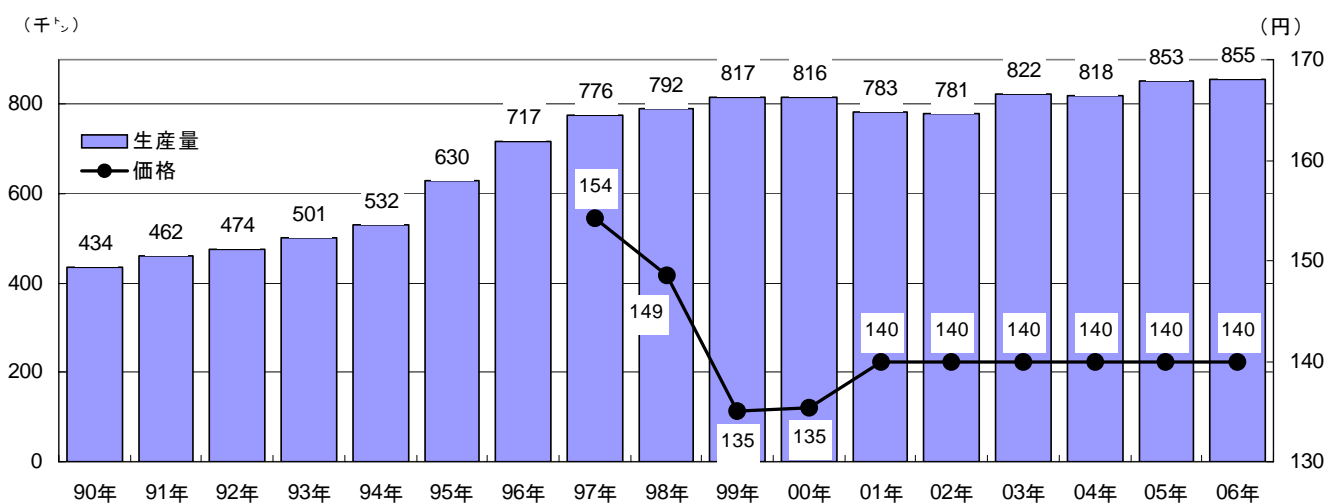


図1 コピー用紙の生産量と価格の推移 (東京代理店卸売相場)

資料：クォーターリー日経商品情報

- 古紙パルプ配合率 100%のコピー用紙の市況について、カウネット（オフィス用品等の通信販売）のカタログ掲載価格を参考にみると、2003 年に価格が低下した後、横這い状態が続き、その後 2007 年頃から上昇している

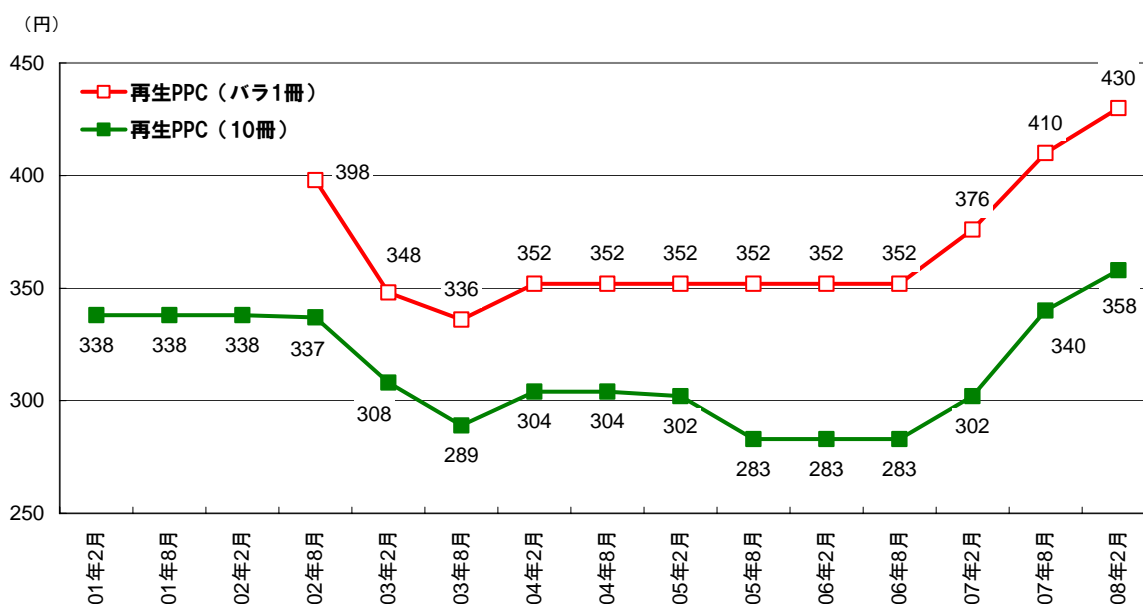


図2 再生紙価格の推移 (A4判 500枚当たり)

資料：カウネット 1～15号

注：再生紙は古紙パルプ配合率 100%の PPC 用紙 (08年2月のみ約 70%)

◇生産設備の動向

- 再生紙に関する生産設備について、古紙パルプ設備の稼動・改造・増設の時期をみると、1989年頃と2000年前後、及び2007年頃に、新設備の稼動や改造の件数が多くなっている

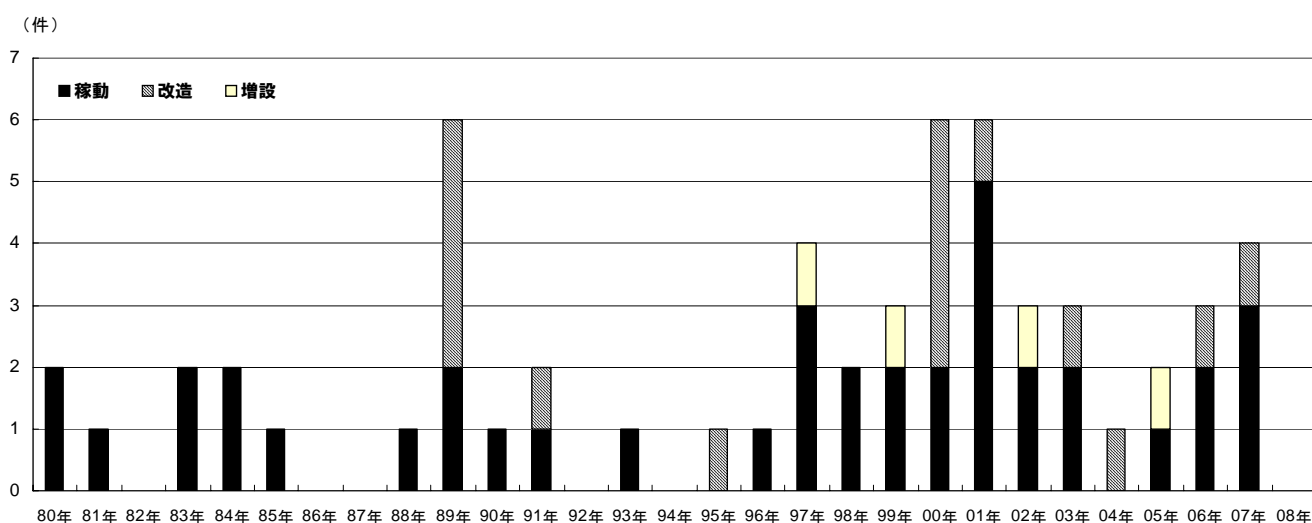


図3 製紙メーカーの古紙パルプ設備の状況

資料：紙パルプ企業・工場データブックより作成

注：王子製紙、日本製紙、大王製紙、中越パルプ工業、北越製紙、三菱製紙

◇古紙消費量・古紙利用率

- 2006年における古紙利用率は60.6%、1997年からの10年間で6.6ポイントの増加となっており、古紙消費量、利用率ともに堅実に伸張している
- 古紙利用の内訳は、板紙（段ボール原紙、白板紙など）は92.7%と限界に達しつつある一方で、紙（印刷情報用紙、新聞用紙、包装用紙など）については38.1%で未だ向上が必要である

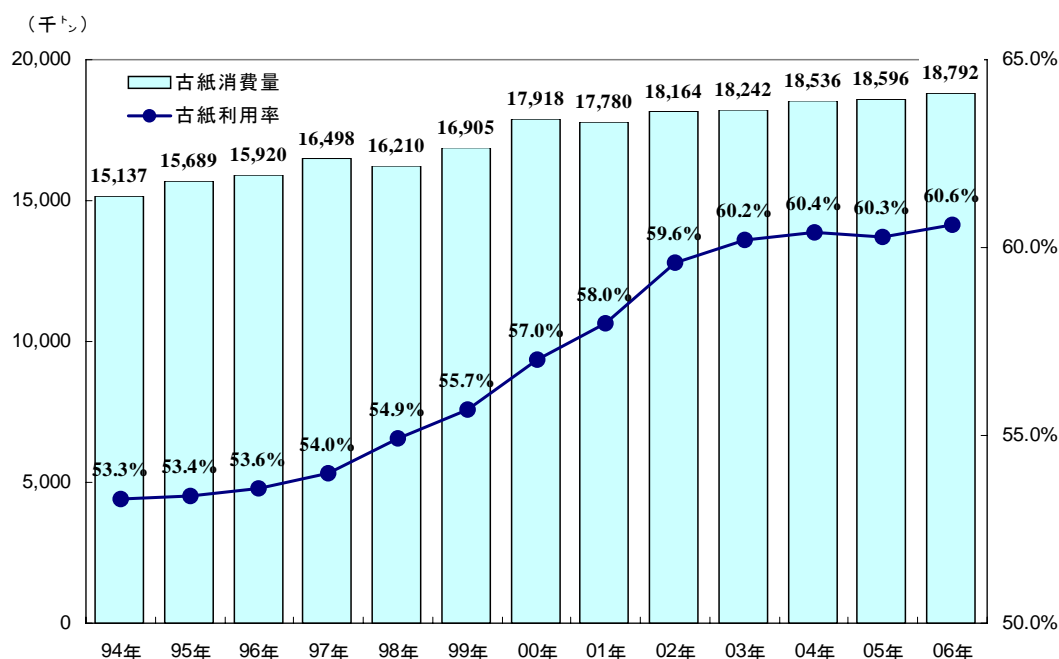


図4 古紙消費量・利用率の推移（1994年～2006年）

資料：紙・印刷・プラスチック・ゴム製品統計

◇古紙回収量・古紙回収率

- 古紙回収率は、1992年～1996年までは51%台で推移していたが、1997年以降一貫して伸びており、2001年に61.5%、2005年は71.1%となり、2006年には72.4%となっている
- 古紙回収量についても、2006年は1992年比で8,359千ト、57.8%の大幅な増加となっており、国内における古紙の供給は極めて順調である

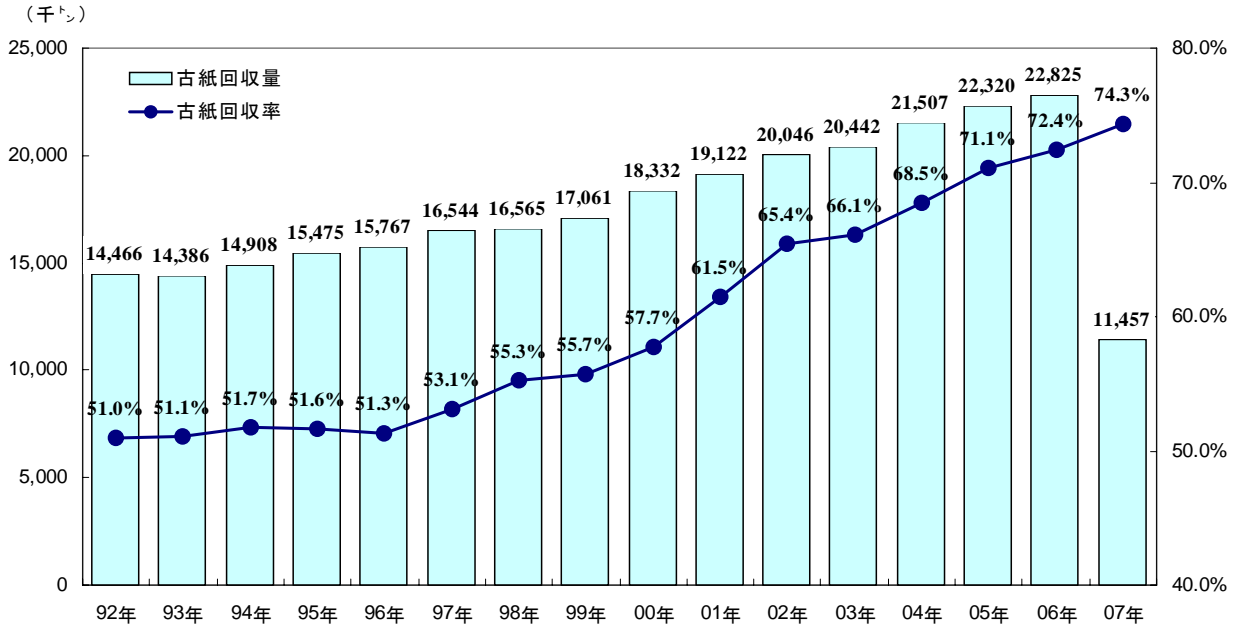


図5 古紙回収量・回収率の推移（1992年～2007年） 注：2007年は1月～6月
資料：紙・印刷・プラスチック・ゴム製品統計

◇古紙品別消費量

○ 2007年における古紙の消費量について、品別に見ると、古紙を配合した印刷・情報用紙の主な原料となる品種では、模造・色上は2,053千ト、新聞は4,928千ト、雑誌は2,562千トとなっている。これに対して上白・カードはわずか80千トであり、そのうち54千トは板紙向けに消費されており、印刷・情報用紙にはほとんど使われていない

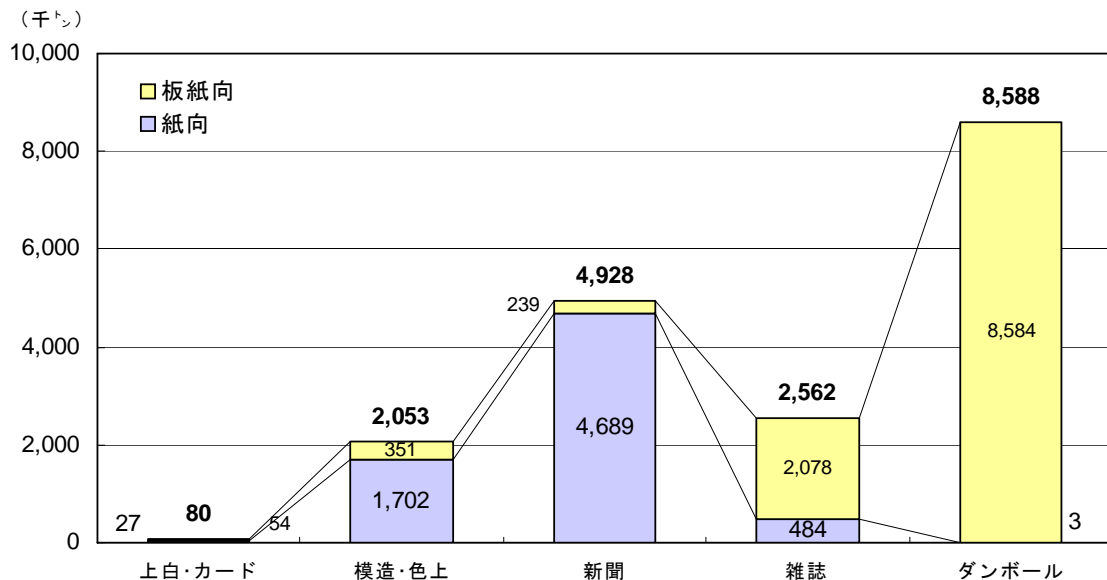


図6 古紙品別消費量（2007年）

資料：（財）古紙再生促進センター

- 古紙の品種別に消費量の推移を見ると、新聞、雑誌、模造・色上のいずれも、消費量は伸びている
- 模造・色上の消費の伸びは、需要の増加とそれに伴う分別の促進により伸びているものである。他方、印刷工場等からの発生量自体は減少しており、今後も増える見込みはなく、上白・カードも減少傾向にある

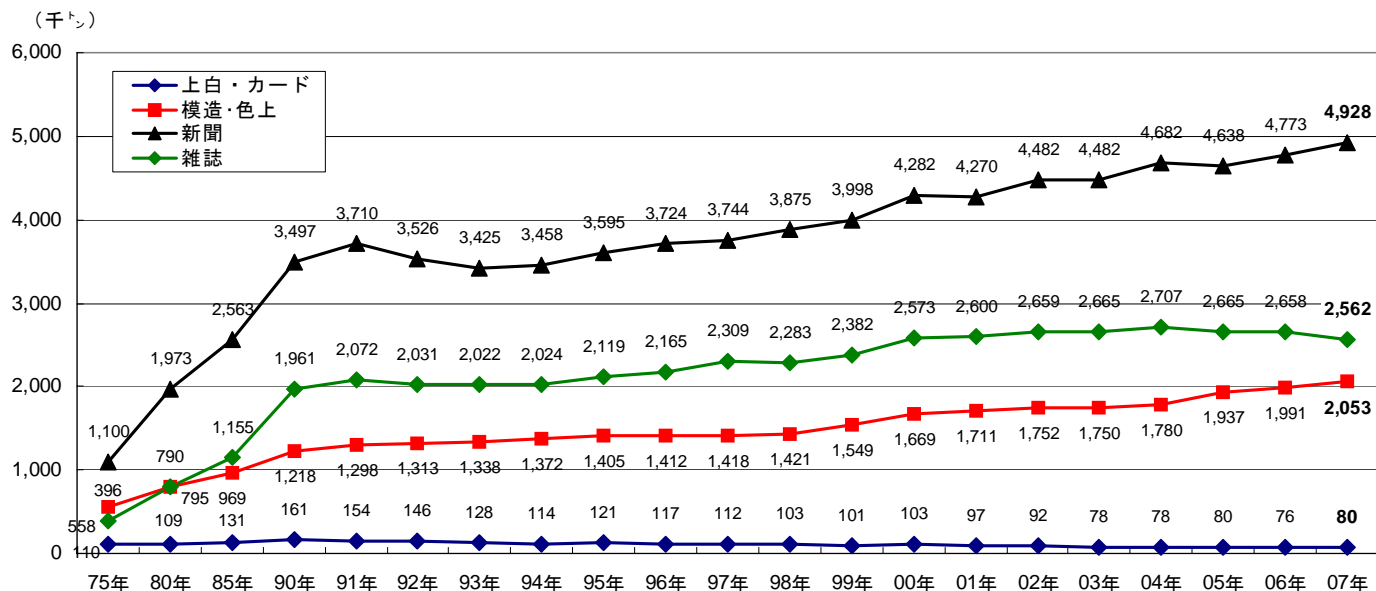


図7 古紙品種別消費量の推移

資料：(財)古紙再生促進センター

◇古紙輸出量

- 古紙輸出を品種別にみると 2000 年以降、いずれの品種についても伸びているが、特に新聞・雑誌と段ボールの増加が顕著である
- 2000 年における古紙回収量 18,332 千トンに占める輸出量は約 2% (372 千トン) であったが、2006 年における古紙回収量 22,825 千トンに占める輸出量は約 17% (3,887 千トン) と急増している。これは中国を中心としたアジアの古紙需要の増加に伴うものである (2006 年の古紙輸出量の 82.1%が中国向け)
- 輸出量の増加がただちに古紙価格の上昇につながっているわけではなく、古紙回収業界では、国内需要を満たした余剰が輸出されているとしており、製紙メーカーの設備増設で国内の古紙需要が増加した 2007 年は、輸出量は若干ながら減少している (2007 年の古紙輸出量は 3,844 千トン。前年比▲1.1%)

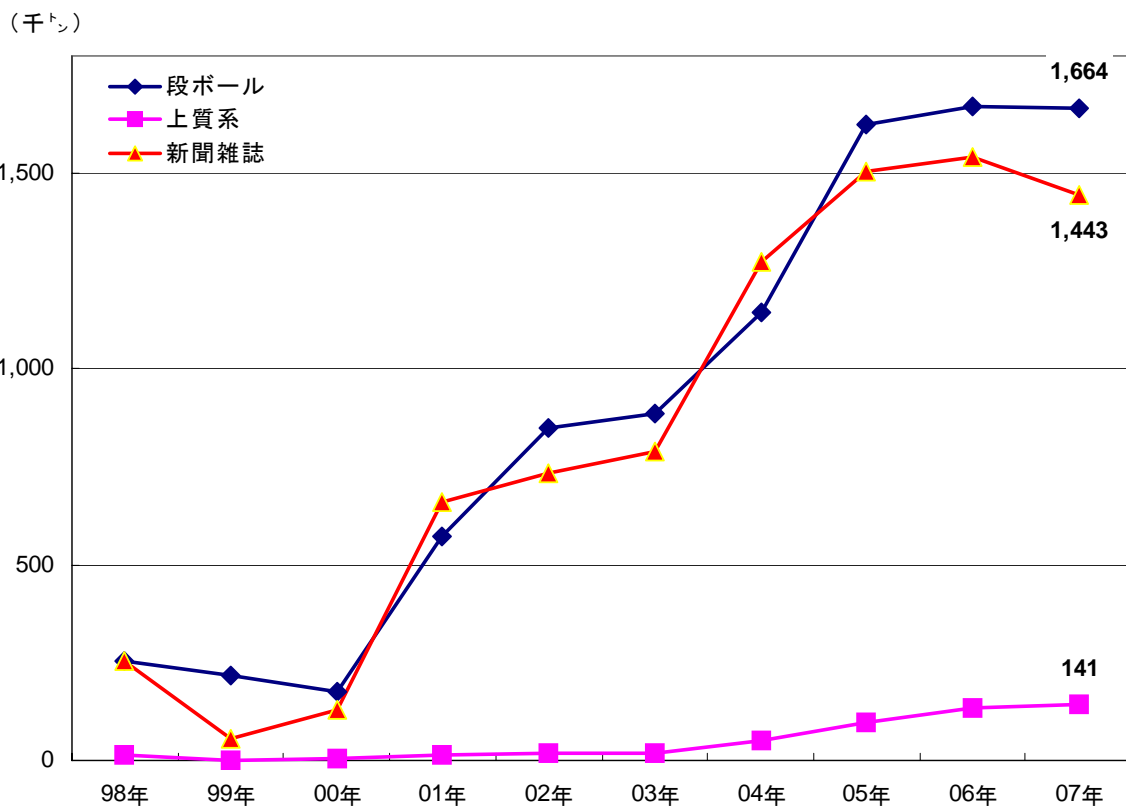


図 8 古紙品種別輸出量の推移

資料：(財)古紙再生促進センター

◇古紙価格

- 国内向け新聞古紙の価格 (問屋店頭渡し) については、1991 年に 17 円/kg でピークとなったが、2001 年～2002 年にかけて 8 円/kg まで下がり、その後若干の上下はあったものの、2005 年末頃まで 10 円/kg 程度で安定していた

- 2006年以降11～12円/kg、2007年には14円/kgとやや上昇傾向にあるが、1991年以降の最高値のレベルにまでには至っていない
- 古紙価格はやや上昇傾向を示しているが、90年代前半ほどの水準ではなく、現時点においては、各企業の採算性が確保できない程に古紙の価格が高騰しているとは考えられない

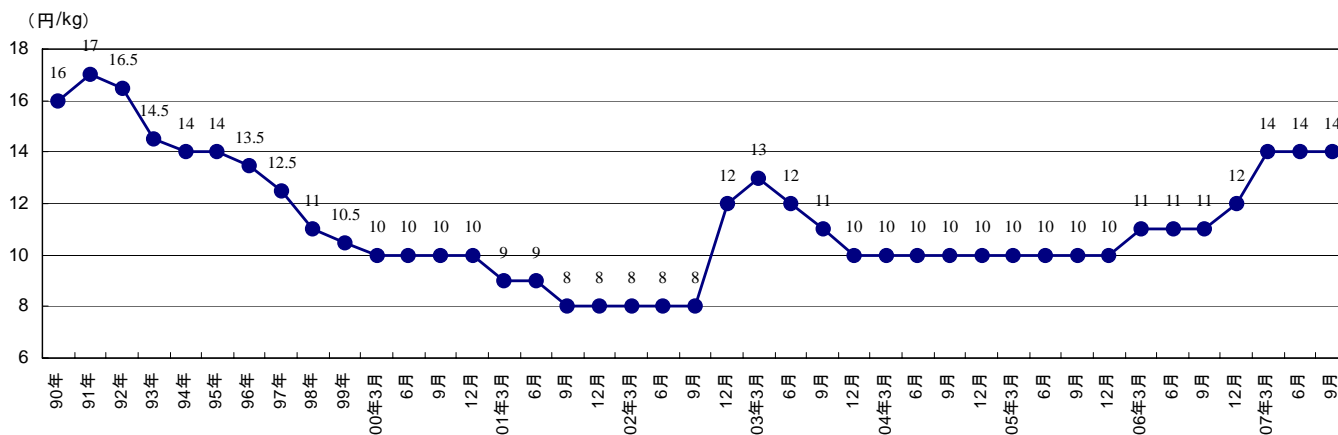


図9 古紙価格の推移（1991年～2007年）

資料：（財）古紙再生促進センター調査